

# 一步一步を 着実に

校長 輿水秀志

立てたりしたかと思えます。3年生はあとわずかです。卒業です。受験のことや最後の高校生活をどう過ごすか、4月からどういう覚悟で新しい道を進んでいくのか、などを真剣に考えたいと思います。2年生は最高学年になりますので、さまざまなことに決意を固めたのではないのでしょうか。1年生は巨摩高校の中心となって活躍する年です。学習面でも部活動の面でも巨摩高校生としての自覚をもって、文武にわたって存分に活躍している姿を夢見たことでしょうか。

昨年皆さんは、学習や部活動、生徒会活動や学校行事などにおいてさまざまな成果を上げてきました。そして今年もさまざまな活躍や成果を上げてくれると期待しておりますが、一生懸命取り組んでいく過程で、時には壁にあたり、いくら努力しても思うような成果が現れない時もあると思います。そんな時は、あせらずあわてずあきらめず、今年の干支の丑のようにゆっくりにゆっくりに進んでいって、一歩一歩着実に踏みしめながら、前進を続けてください。あきらめずに前進を続けていければ、必ず目標が達成できます。

辛いという字は、辛いという字に似ています。画数が一つ異なるだけです。辛くてもあきらめず一歩一歩前に進みましょう。そうすればきっと目標に到達し、辛くなくなります。

1月3日の箱根駅伝には、中央大学の9区に本校の卒業生の平川信彦君が出場し、区間4位の力走を見せられました。私もテレビで平川君の力走を見ていましたが、平川君の一歩一歩の力強い走りにとっても感動しました。

皆さんも、さまざまな歩みがあると思いますが、平川選手のように歩歩に

責任を持ちながら、力強く前進し、それぞれの夢の実現を目指しましょう。この1年健康で良い年でありますよう願っております。

(平成21年1月7日記)

## 特集 修学旅行

# 一生忘れない、3泊4日、南の島の旅。

12月3日から6日まで2年生は3泊4日で修学旅行に行きました。3年間の最大行事、事前学習も十分にしていざ沖縄へ。青い海や豊かな自然を満喫し、沖縄そばやパイナップルに舌鼓を打つ一方で、平和についても深く学びました。



**冬編**

## がんばる巨摩高生 弓道部・卓球部が健闘!!

東日本高等学校弓道大会が12月25、26日に神奈川県横須賀市の横須賀アリーナで開催されました。巨摩高女子は3人立ちは予選不通過でしたが、5人立ちで決勝トーナメントに進出、1回戦で、吉祥女子(東京)に9-12で惜しくも敗れました。また、関東高等学校新人卓球大会は12月24、25日に神奈川県平塚市の平塚アリーナで開催され、巨摩高女子は健闘しましたが予選リーグ3敗で決勝トーナメント進出はできませんでした。

## 演奏したり、カクテル作ったり… 学び、楽しみながら国際交流。

12月10日、国際交流の一環として、台湾国立淡水高級商工職業学校の生徒64名、引率の先生6名が巨摩高を訪問しました。当日は5校時に歓迎集会が開かれ、淡水商工はカクテル作り、吹奏楽を、巨摩高は吹奏楽、争曲を披露し交流を深めました。6校時は授業に参加、放課後は部活動を見学しました。

### 南の島への旅

山梨については、見ることもできない、たぐったものも出てきた。

河野佳苗

手がかじかむほど寒い山梨から、海を渡って12月でも暖かい沖縄へ。この3泊4日で私は多くのことを学ぶことができた。前半は平和学習、いわゆる沖縄の影の部分的学習だ。私は、アンティラガマで聞いた「平和ほど尊いものはない。人間の命ほど大切なものはない。」という言葉が強く心に残っている。一日目に見学した旧海軍司令部壕や、二日目に見学した平和祈念公園、ひめゆりの塔などを通して、最後に私たち人間が忘れてはいけないことが、その言葉なのだと思ふ。当たり前すぎて普段意識しないため、改めて口に出されることによつてさらに心に響いた。

後半は観光地を巡る、沖縄の光の部分体験した。残念ながら悪天候のためマリンスポーツは中止となったが、三日目のタクシーでの班別行動は沖縄の楽しさを味わうことができた旅だった。琉球ガラスのストラップ作り、パイナップルの食べ放題、さらに美ら海水族館では初めて生きているナマコに触れたこと、タクシーの運転手さんの優しさや他県の高校の修学旅行生と二期一会の出会いなど、感動してばかりだった。

この3泊4日、風邪を引いてしまったり道に迷いかけていたりしたが、その度に周りの人に助けられた。飛行機に青い海、暗いガマや世界文化遺産の首里城、山梨には見ることができない、私には「一生忘れない」を、私は「一生忘れない」。

### 平和の礎を通して

楽しいもあつた、真剣な学習もあつた、一生忘れないように頑張ろう。

平澤大貴

高校生活での最大の行事といえばやはり修学旅行だ。その修学旅行で多くの事を学び、たくさんを知ることができた。修学旅行は3泊4日で行く沖縄だ。沖縄での修学旅行で一番印象に残っているのは、夜にみんなで楽しんだことを除けば、僕は平和の礎だと思ふ。

沖縄は日本で唯地上戦が行われた場所であり、その沖縄戦による犠牲はとてつもなく、国内外の二十万余りの人々が亡くなった。その亡くなった人たちの名前が一人ずつ書いてあるのが「平和の礎」だ。これには沖縄戦時に沖縄でなくなった人々の名前が書いてある。都道府県別に置かれていて、中には山梨の礎もあり、山梨から沖縄へ行ってたことがわかる。驚いたことに敵であったはずの国外の人たちの名前も書いてあり、そうすることで戦争の悲惨さを訴え、平和を思う気持ちを世界全体へ伝えていくのだと思ふ。未だに戦争や、テロ活動が行われている現代へのメッセージだろう。たくさん礎が置かれている意味や訴えを、国や企業ではなく、個人がよく考えることで、これからの世界は変わっていくと思ふ。これからの社会を変えていく世界が平和になつていけば、沖縄戦や、多くの戦争でなくなつた人々に誇れるようになる。

沖縄での修学旅行は楽しくもあり、真剣な学習であり、一生忘れないことのできない思い出になった。